

## 青学陸上部監督 原晋さんが 三原市ふるさと大使に

市と商工会議所、観光協会などでつくるふるさと情報発信事業推進協議会は、青山学院大学陸上競技部監督の原晋すすむさんに三原市ふるさと大使を委嘱しました。

原さんは糸崎出身。中学から陸上競技を始め、世羅高校、中京大学へと進学後、中国電力に入社しました。平成16年からは青山学院大学陸上競技部の監督を務め、今年の第93回箱根駅伝で3年連続の総合優勝を達成しました。また、テレビ番組に出演するなど、さまざまな場面で活躍しています。



▲天満市長から委嘱状を受け取る原晋さん

先月2日の委嘱状の交付式で、原さんは「今の私の礎は三原で築かれたもの。そんな三原へ恩返しできるきっかけができて、うれしい」と笑顔で話しました。

市のふるさと大使は原さんを含めて14人と1組。ふるさと大使の皆さんには、市のイメージアップのためにメディアを通して情報を発信してもらったり、産業・観光などの振興のために助言してもらったりしています。

### ☎観光課

☎0848・67・6015

## 瀬戸内三原築城 450年事業が閉幕

先月、瀬戸内三原築城450年事業が閉幕しました。5日にはリージョンプラザでクロージングセレモニーが開かれ、市民や関係者ら約400人が3年にわたって行われた事業を振り返りました。

式典で瀬戸内三原築城450年事業推進協議会の勝村善博会長は「事業が歴史・文化の再認識や駅前活性化、観光名所の創出につながった」と話し、同協議会の名誉会長を務める天満市長は「事業の成果を生かし、官民一体となってまちづくりに取り組んでいきたい」と今後の抱負を述べました。



▲小早川隆治さんに感謝状が贈られました

式典には小早川家当主の小早川隆治さんも参加し、市の文化の振興のため、所有する歴史資料の一部を寄贈することを発表。市内の公立中学校11校でつくる生徒会連合会のメンバーが「人と人との交流を大切にし、ふるさとの宝を守り、さらに輝かせたい」と50年後の築城500年へ向けて宣言し、事業を締めくくりました。

式典ではこのほか、幸崎中学校の生徒の獅子太鼓や三原小学校の児童の合唱が披露され、会場を盛り上げました。

### ☎築城450年事業推進担当室

☎0848・61・0450



▲三原小学校の児童が市歌を合唱しました



▲未来へ向けて力強く宣言する生徒会連合会のメンバー